

■幸田延 ピアニスト・バイオリニスト。音楽教育者。人気音楽家として活躍するも、“上野の西太后”の名指し非難で、退官。

こうだのぶ

初の日刊新聞1870＝ 東京下谷中御徒町に生まれる。父は旧幕臣で登城した大名の世話をし、有職故実、礼法などを教える役柄表坊主、幸田成延。母の猷は祖父、利貞のひとり娘で父・成延は養子。8人兄弟姉妹の長女で、4人の兄のうち二兄は千島列島を開拓した探検家の郡司成忠。四兄成行は「五重の塔」で知られる作家幸田露伴。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

母の手ほどきで長唄を始める。次いで杵屋えつに入門。入学前後から山瀬松韻について山田流箏曲も習い始める。

三つの内乱・1876＝ 6歳：お茶ノ水の英京女子師範附属小学校に入学。

沖縄県編入・1879＝ 9歳：

女子師範附属小学校に出講したメーソンから楽才を注目され、その薦めで、

明治14年政変1881＝11歳：音楽取調掛に通い、メーソンと中村専からピアノの指導を受けるようになる。メーソンの薦めで、

新体詩抄・・・1882＝12歳：音楽取調掛の伝習生となる。メーソンがアメリカへ帰国した後は、

ピアノを瓜生繁、ヴァイオリンを多久階、声楽を上真行に師事。

秩父事件・・・1884＝14歳：ヴァイオリンの試験でクロイツァーの42番を演奏し、88点を獲得して卒業試験に合格。

内閣発足・・・1885＝15歳：文部省音楽取調所第1回卒業生となる。研究科に進み、助手を拝命して教え始める。卒業演奏にはピアノでウェーバーの「舞踏への勧誘」を独奏、ほかにヴァイオリンの三重奏もおこなった。

母校の音楽教師をつとめ、

初の対等条約1888＝18歳：

帝国憲法発布1889＝19歳：第1回文部省留学生に選ばれ、ボストンへ渡り、メーソンの知人が校長のニューイングランド音楽院に入学。

ヴァイオリンを専攻し、ピアノも学ぶ。寄宿舎で生活。ニキシユ、サラサーテらの演奏を聴く。

帝国議会始・・・1890＝20歳：いったん帰国し、ウィーン音楽院に再留学し、ピアノ・ヴァイオリン・和声学・対位法・作曲法を学ぶ。

足尾鉾毒始・・・1891＝21歳：\*この年の{音楽雑誌}の婦人音楽家人気投票で一位。

郡司千島探検1893＝23歳：この年、兄郡司成忠が千島列島最北端探検に成功。

日清戦争始・・・1894＝24歳：

日清戦争終・・・1895＝25歳：卒業して帰国し、前年日本を去ったディートリヒの後任として東京音楽学校の教授に就任。

松隈内閣・・・1896＝26歳：帰朝記念演奏会が東京音楽学校奏楽堂で開催される。

八幡製鉄始・・・1897＝27歳：\*日本人初の本格的器楽作品「ヴァイオリン・ソナタニ短調」を発表したのをはじめ、

演奏と教育の両面で活躍するが、

日露戦争終・・・1905＝35歳：

満鉄発足・・・1906＝36歳：大衆紙{日本}に“日本で2番目の高額所得女性”と書かれ、

アヲキ創刊・・・1908＝38歳：\_{やまと新聞}に‘教育家としての品性人格は絶対に否認せざるをえない’という中傷記事が載り、{東京朝日新聞}の連載記事で、上野の西太后の渾名をつけられるなど、辛辣に名指し非難される。さらに、

伊藤博文暗殺1909＝39歳：\*弟子三浦環の不倫事件が世間を騒がせ、休職。訪欧し、ベルリン留学中の後輩山田耕作の訪問を受け、

韓国併合・・・1910＝40歳：帰国。

大逆事件判決1911＝41歳：兄郡司大尉の世話で、赤坂紀尾井町に邸宅を購入。ここで\_{審声会}を開き、個人教授を始める。

明治天皇没・・・1912＝42歳：

21ヶ条要求・・・1915＝45歳：大正天皇の即位式典で混声4部合唱つき交響曲「大礼奉祝曲」、歌曲「藤のゆかり」を発表。

第一次大戦終1918＝48歳：紀尾井町の\_自邸敷地内に“洋洋楽堂”と呼ぶ音楽堂を建てる。

ベルリン条約・・・1919＝49歳：徳川生物研究所を主宰する徳川義親侯爵一行に同行して、北千島探検旅行に出掛ける。

原敬首相暗殺1921＝51歳：\_来日した人気ヴァイオリニスト・ミッシェル＝エルマンが“洋洋楽堂”を訪れ、私的な演奏会を開く。

水平社結成・・・1922＝52歳：\_同じく、来日したポーランド出身の名ピアニスト・レオポルド＝ゴドフスキーを招き、演奏会を開く。

護憲三派圧勝1924＝54歳：兄郡司成忠が死去。

世界恐慌・・・1929＝59歳：\_ロシア出身の名ピアニスト・レオ＝シロタが来日し、“洋洋楽堂”で記念演奏会を開く。

満州事変・・・1931＝61歳：\_東京音楽学校同声会と審声会の合同主催で、“幸田延子先生功績表彰会”が開催され、盛大に祝われる。

国際連盟脱退1933＝63歳：

日中戦争始・・・1937＝67歳：\_兄の露伴と同時に、洋楽関係者初の、また女性初の日本芸術院会員となる。

第二次大戦始1939＝69歳：フランスから帰朝した草間(安川)加壽子を招いて“洋洋楽堂”で試演会を開く。

\_自宅で個人教授を続けるが、

日米開戦・・・1941＝71歳：

近代の超克・・・1942＝72歳：\*{審声会}発表会プログラムからすべての欧文表記が消える。妹幸も受難。

創価学会検挙1943＝73歳：{審声会}第50回目の発表会を迎える。

敗戦・・・1945＝75歳：紀尾井町の家は焼け残るも、\_戦時下の窮乏生活がたたり、心臓病を悪化させ、

新憲法公布・・・1946＝76歳：\_没した。

著書に「私の半生」がある。

萩谷由喜子「幸田姉妹」、